

第2回 津駅周辺道路空間再編検討委員会

津駅周辺道路空間における 賑わい創出の取組結果について

令和6年2月26日
三 重 県

賑わい創出の取組概要

実施日 ■ 令和5年10月11日～10月22日（各日10時～18時）

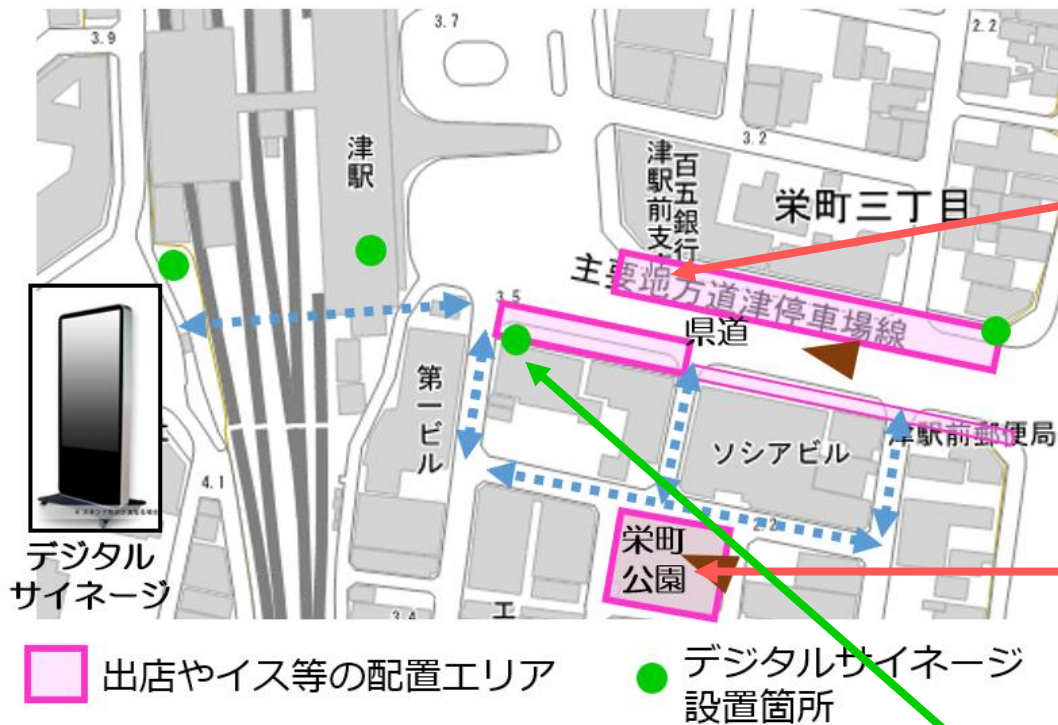
（交通規制は、10月10日～10月23日）

- 内容 ■ 県道だけでなく栄町公園も利用し、面的に賑わい創出の取組を実施
（キッチンカーや店舗の出店、テーブル・イスを配置します）
- デジタルサイネージを駅周辺に設置し、東西連携や回遊性を高める

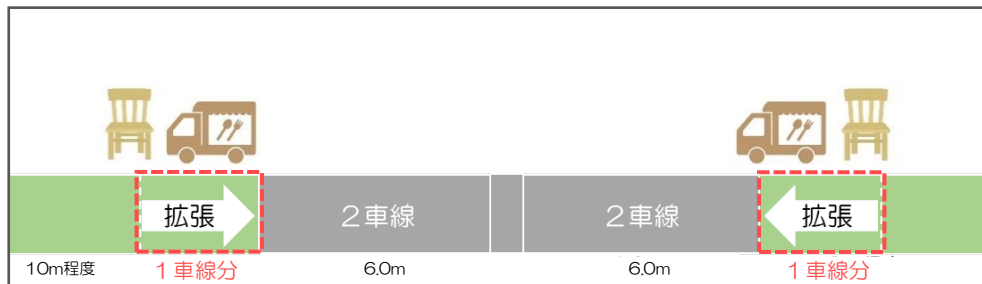


賑わい創出の取組状況

社会実験の平面図



横断図



賑わいの社会実験の調査項目

1 利活用の状況調査

拡張した歩道空間の店舗やベンチ・テーブル・イスについて
どのような使われ方をしているか
利用者数、利用状況等をビデオカメラで確認

2 東西連携や回遊性の調査

地下道や公園の利用者数、利用状況等をビデオカメラで確認

3 賑わいや滞留の意向調査

アンケート結果やヒアリング結果を確認

1 利活用の調査結果

キッチンカーや店舗の状況

キッチンカー・物販の出店者 **32** 店舗
(延べ95店舗)

延べ利用者数 約10,000人



1 利活用の調査結果

働くクルマ等のイベント状況

働くクルマ等のイベント数8回

延べ利用者数 約2,000人



幅広い年代が様々なシーンで利用（家族、友達、恋人など）



1 利活用の調査結果

まとめ

- キッチンカー・物販の利用者延べ約10,000人、イベント参加者延べ約2,000人、合計延べ約12,000人(前回6,500人) が来場し大いに賑わった。
- テーブル・イスやベンチは、幅広い年代が自由に利用していた。
- 栄町公園内に設置したテーブル・イスは、期間中の平均で、約5割以上が使用されており、平日のランチ時間帯では約7割、休日のイベント時には終日ほぼ満席であるなど、県道の賑わいが公園周辺に面的に波及した。



2 東西連携や回遊性の調査結果

東西連携や回遊性について

- 社会実験の前後で、地下道利用者数をカウント
- 回遊状況を確認するため、栄町公園周辺の歩行者交通量を調査



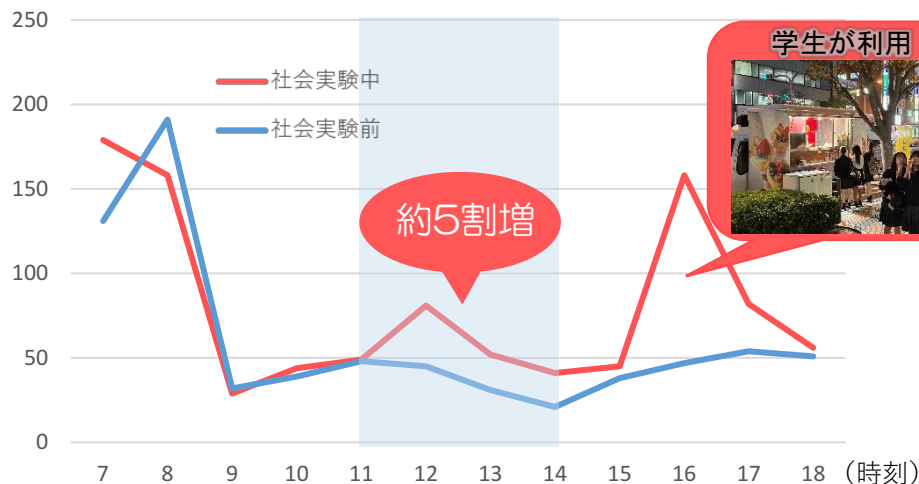
地下道利用者数の変化（西口から東口方向（平日））

- 地下道利用者数は、実験前と比較し、実験中で約3割増
- 実験中の時間当たりの歩行者交通量は、ランチ時間帯で約5割増
- 夕方の利用者数増加は学生と考えられる

12時間交通量の変化

横断歩道	実験前	実験中	増減	増減率
歩行者	728	974	+248	134%

（人） 時間当たりの歩行者交通量の変化



※実験前：10月6日（金） 実験中：10月12日（木）

※ランチ時間帯：11時～14時

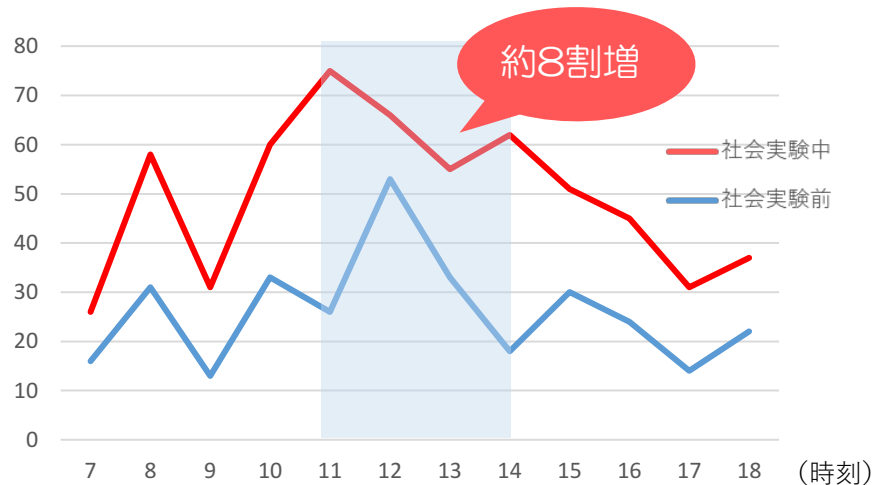
地下道利用者数の変化（西口から東口方向（休日））

- 地下道利用者数は、実験前と比較し、実験中で約2倍
- 実験中の時間当たりの歩行者交通量は、ランチ時間帯で約8割増
- 11時頃がピーク。その後も急減することなく多くの方が東口に来られた

12時間交通量の変化

横断歩道	実験前	実験中	増減	増減率
歩行者	313	597	+284	191%

(人) 時間当たりの歩行者交通量の変化



※実験前：10月9日（日） 実験中：10月22日（日）

※ランチ時間帯：11時～14時

公園周辺の歩行者交通量の変化（平日）

- ①の交通量は、実験前と比較し、実験中で約2倍
- ②③の交通量は、実験前と比較し、約1～2割増
- ランチ時間帯の①の交通量は、実験中で約3倍

➡ 県道でランチを購入 → 公園で食事 → 仕事

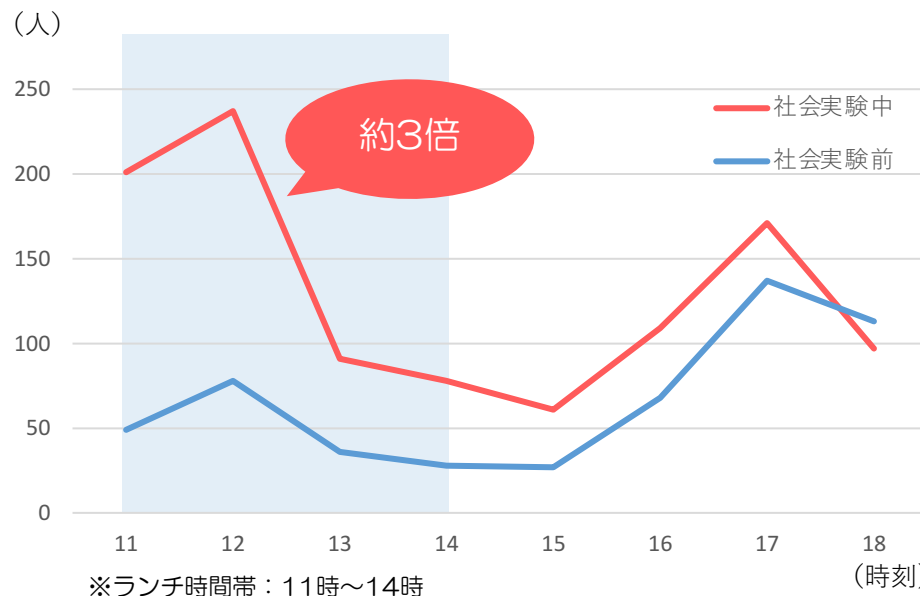


交通量の変化

方向	実験前	実験中	増減	増減率
①	543	1045	+502	192%
②	777	937	+160	121%
③	453	495	+42	110%

※実験前：10月6日（金） 実験中：10月12日（木）

方向①の時間当たりの歩行者交通量の変化



公園周辺の歩行者交通量の変化（休日）

- ①の交通量は、実験前と比較し、実験中で約7倍
- ②③の交通量は、実験前と比較し、約2～3倍
- ランチ時間帯の①の交通量は、実験中で約11倍

➡ 県道でランチを購入↔公園で食事・イベント

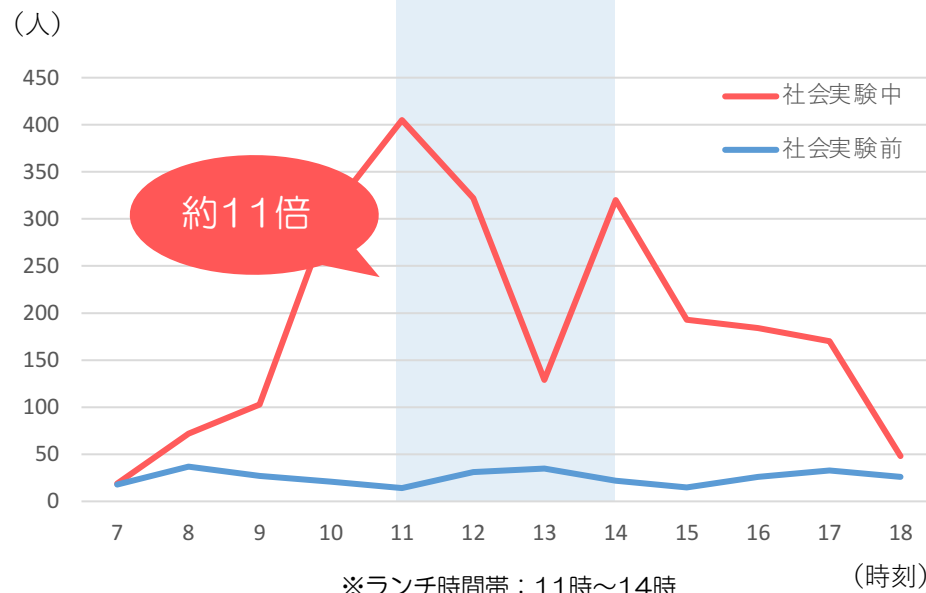


交通量の変化

方向	実験前	実験中	増減	増減率
①	305	2273	+1968	745%
②	411	1279	+868	311%
③	300	785	+485	261%

※実験前：10月9日（日） 実験中：10月22日（日）

方向①の時間当たりの歩行者交通量の変化



2 東西連携や回遊性の調査結果

まとめ

地下道や公園周辺の交通量

- 地下道利用者数（西口から東口方向）は、実験前と比較し、平日で約3割増、休日で約2倍となった。ランチ時間帯は、平日で約8割増、休日で約3倍となった。
- 公園周辺の交通量についても同様の傾向があり、実験前と比較し平日で約2倍、休日で7倍となった。また、公園のテーブル・イスは休日のイベント時にはほぼ満席となり、音楽ライブを聞くことなど自由にゆっくりと飲食等（滞留）をしていたと考えられる。

3 賑わいや滞留の意向調査結果

調査対象者

- 賑わいの社会実験の来場者と出店事業者

調査方法

- HPでアンケートフォームを公開
- 現地でアンケートに直接アクセスできるQRコードを配布
- QRコードをキッチンカーに掲示、
チラシ・ポスター、現地に設置したテーブルに掲載

回答者数

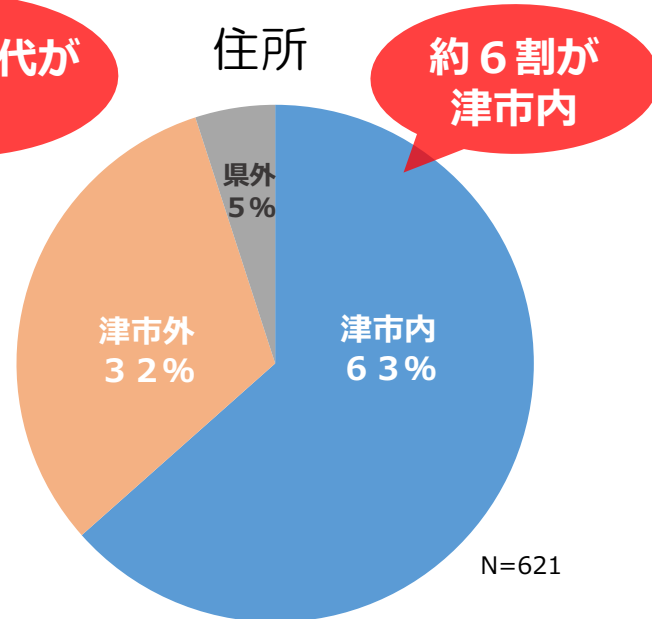
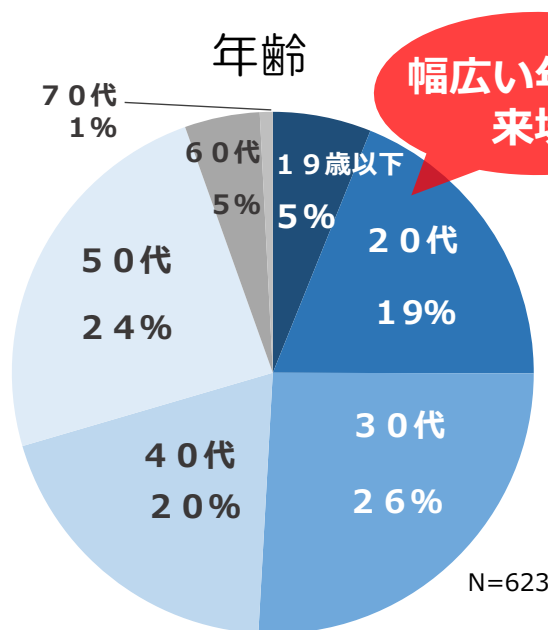
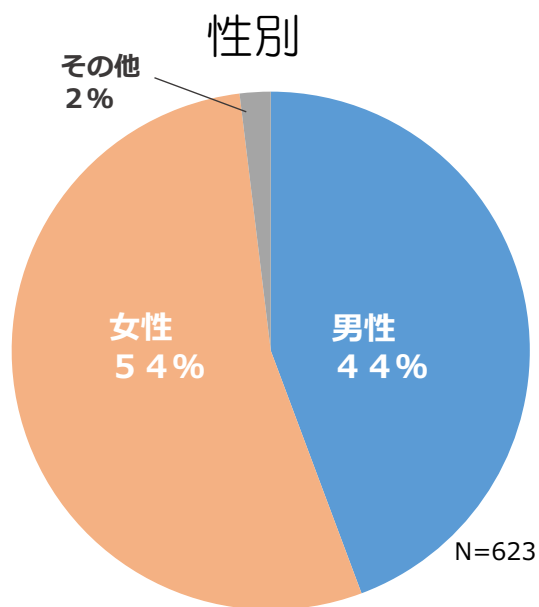
- 来場者アンケート 626人
- 出店事業者アンケート 37人

年齢

幅広い年代が来場

住所

来場者の約6割が津市在住者



3 賑わいや滞留の意向調査結果 来場者用アンケート

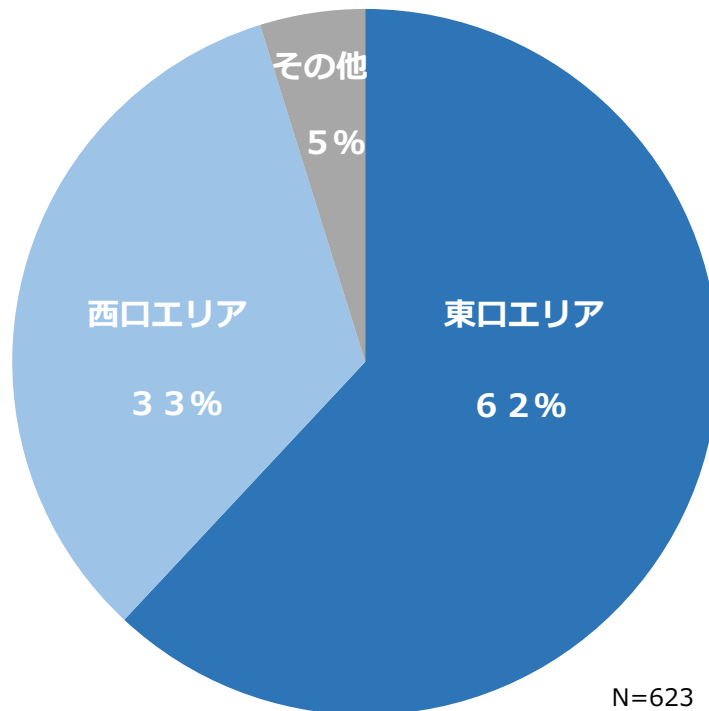
エリア

来場者の約6割が東口エリアから来場

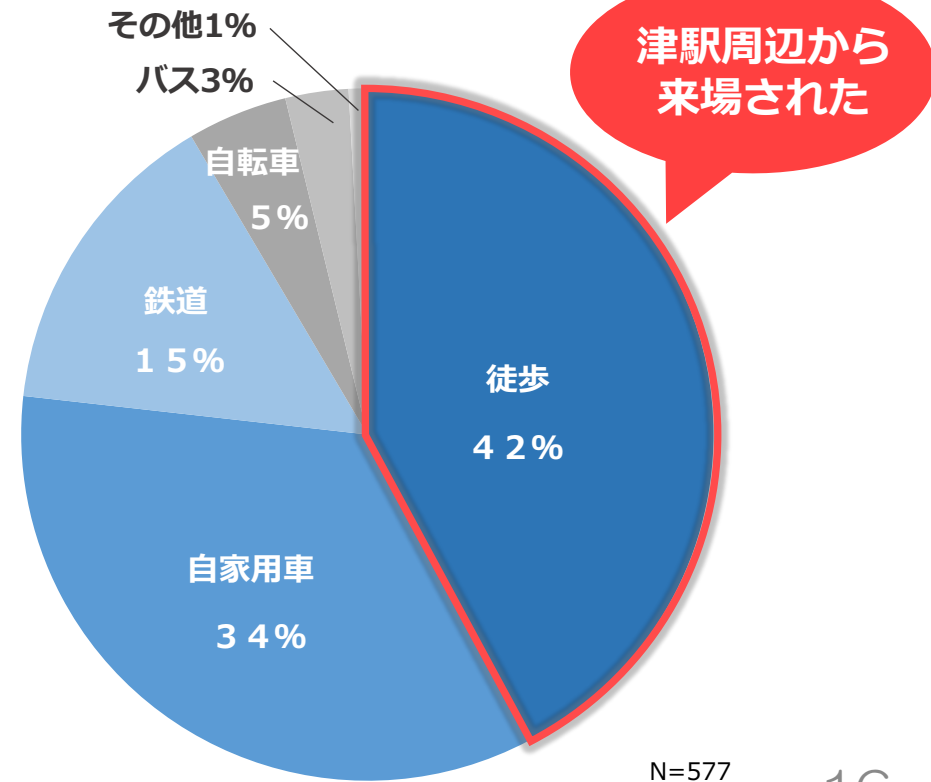
交通手段

約4割が徒歩での来場

エリアについて



交通手段



3 賑わいや滞留の意向調査結果 来場者用アンケート

利用回数

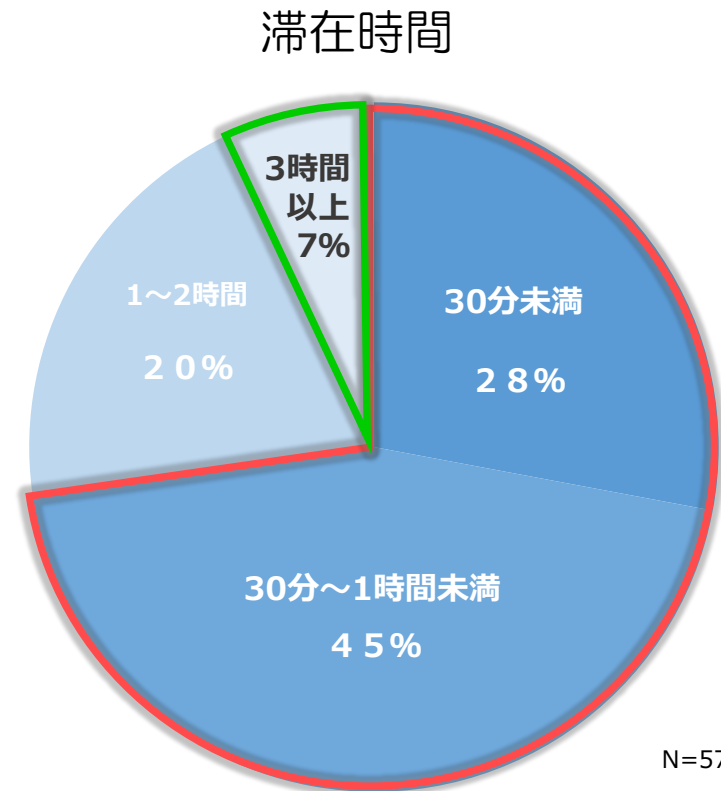
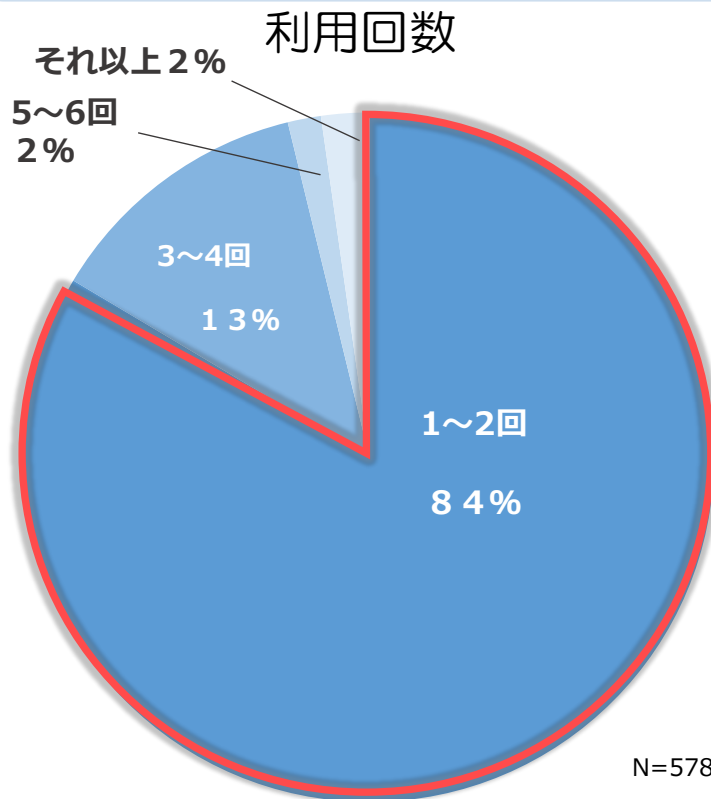
1～2回が約8割

滞在時間

1時間未満が約7割 →多くの方が持ち帰りの利用

3時間以上が約1割 →公園使用が滞留に影響あり

(前回調査の3時間以上1%未満から増加した)

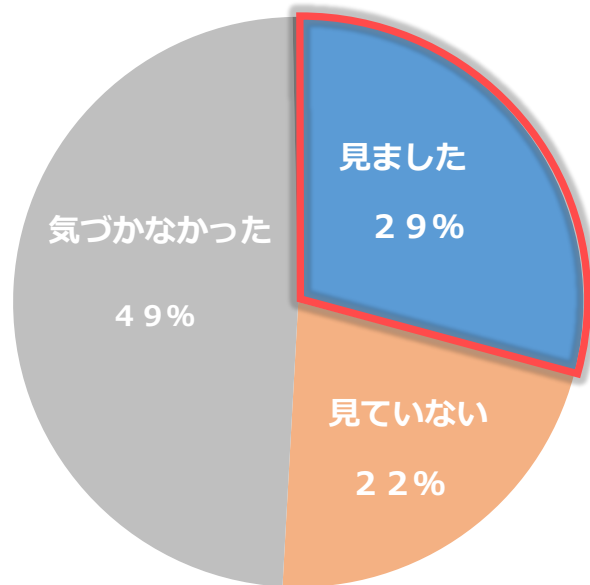


デジタルサイネージ

来場者の約3割がサイネージを見たと回答

また、約半数がサイネージについて気づかなかったと回答

デジタルサイネージを
見ましたか



N=625

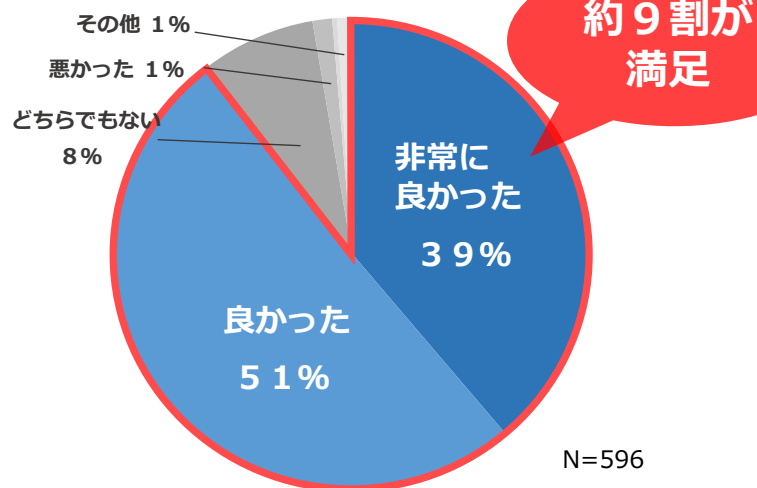
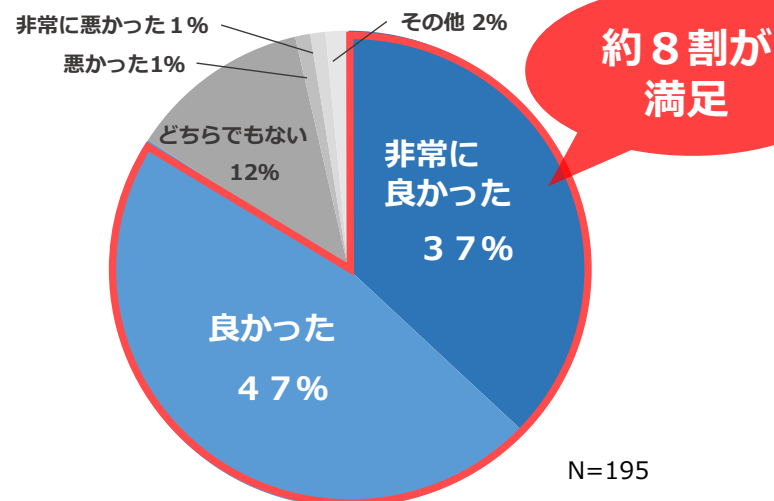
西口にもサイネージがあり

わかりやすかったとの声がある一方で

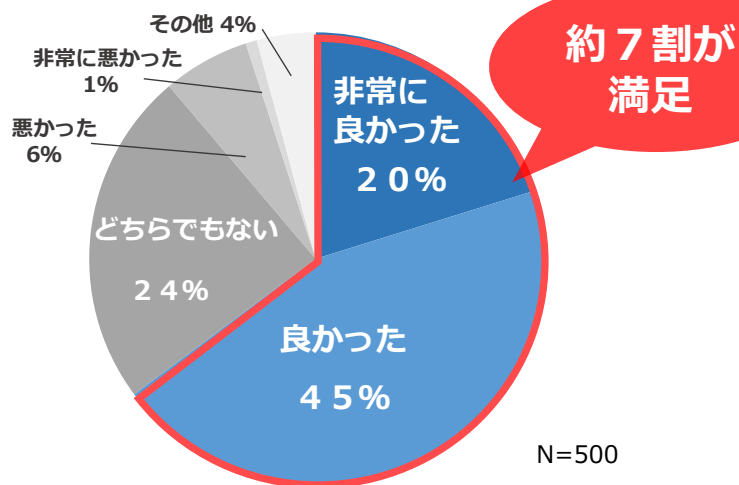
電源の関係から自由に設置ができず

周囲に溶け込み、気づきにくかった

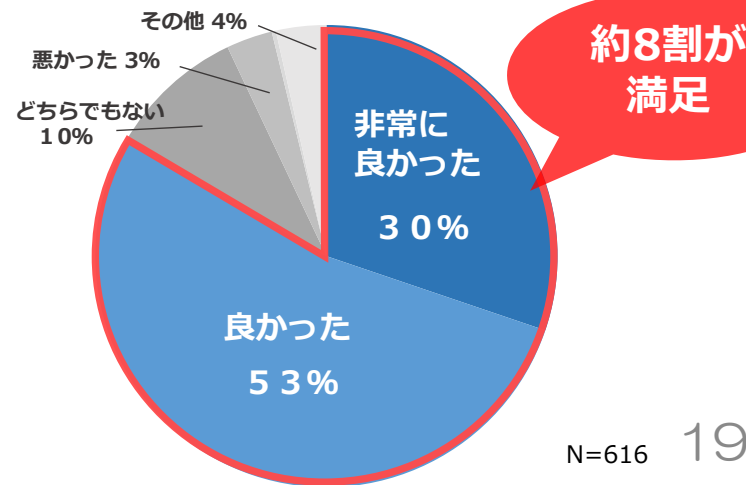


キッチンカー
物販の出店について働くクルマ等の
イベントについて

ベンチ・テーブル等について



栄町公園の使用について



賑わいの社会実験

出店事業者の全員が満足と回答

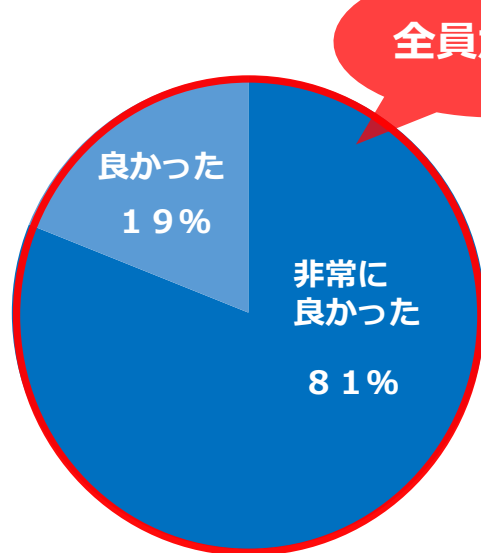
今後の出店意向

出店事業者の全員が出店希望と回答

このような取組

出店事業者の全員が満足と回答

賑わいの社会実験について



N=37

今後の出店意向について



N=36

今後の取組について



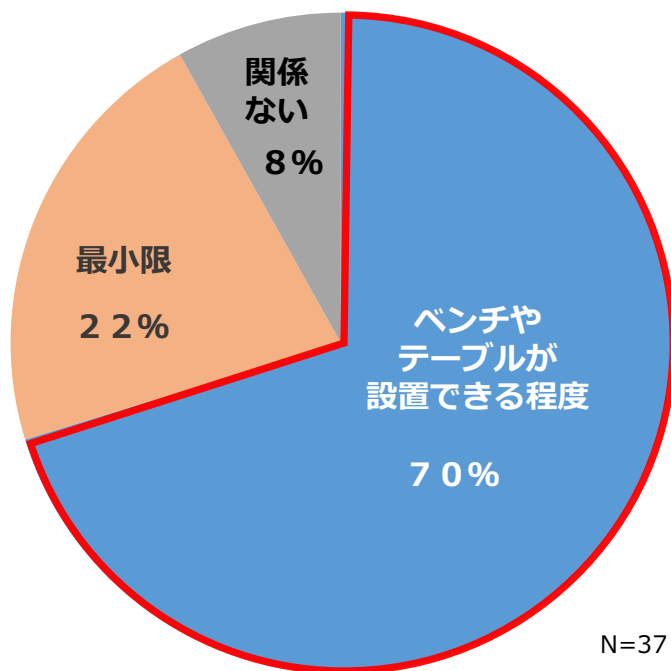
N=37

隣接事業者との距離

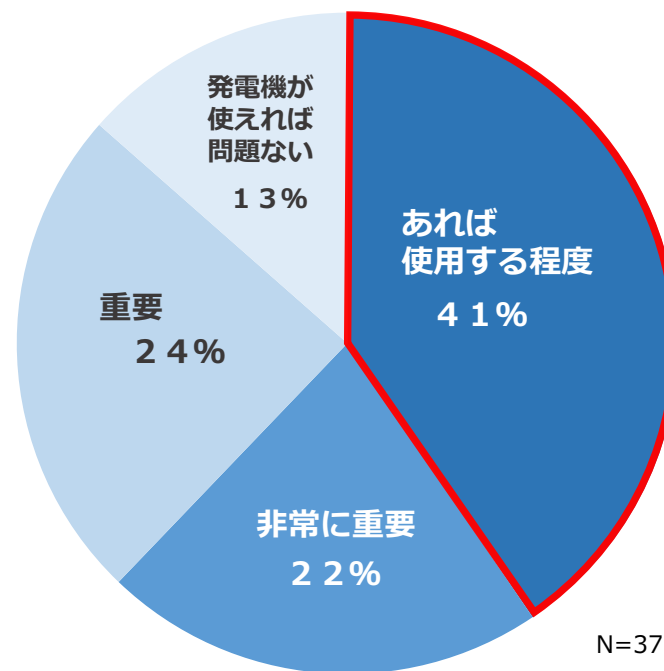
ベンチ等が設置できる程度の離隔が7割

電源について

約4割があれば使用する程度と回答

出店事業者の配置間隔
事業者間の離隔について

電源について



来場者の主な意見

- ・ 津駅前が賑やかで活気があるように感じた。継続・定着してほしい。
- ・ 楽しかった。周辺店舗でも買い物や食事をした。
- ・ 栄町公園のテーブル・イスでゆっくり過ごすことができ、良かった。
- ・ 子どももすごく喜んでいた。駅前で家族連れが楽しめる土日イベントがあるのがとても嬉しい。実装が楽しみです。
- ・ テーブル・イスの数が少なく、もっと欲しかった。
- ・ キッチンカーの出店数が少なく残念だった。
- ・ 日差しを遮る木陰がなかった。
- ・ バリアフリー化（段差解消・タイルをやめる）をしてほしい。

近隣店舗の主な意見

- 賑わって良かった。数か月に1回実施してほしい。
- 楽しみにしていた。普段にないものが購入できて嬉しかった。
- 栄町公園でイベント（ミニライブ）の実施やテーブル・イス等を配置したことで、栄町公園の新たな使い方がわかった。
- キッチンカーで買った商品のゴミを沿線店舗のゴミ箱に捨てられた。
- 出店者のBGMの音量が大きく、うるさかった。

3 賑わいや滞留の意向調査結果

まとめ

- 社会実験には、幅広い年代が来場し、来場者の約4割が津駅周辺に在住の方や津駅周辺で働いている方と考えられる。
 - 来場者や事業者から満足との回答がほとんどだった。
 - 近隣店舗の方からも好評だった。
 - 栄町公園の使用について、8割以上が高評価であり、公園を使用したことで、滞在時間が延び、滞留が図れた。
-
- 一部のデジタルサイネージについて、歩道上に電源設備があれば、より効果的に配置でき、多くの来場者が利用できる。
 - 日差しを遮る木陰等があれば、より長く滞在できる。
 - バリアフリー化をすれば、来場者がより安全に利用できる。

3 賑わいや滞留の意向調査結果

まとめ

滞留に必要な要素

魅力のあるコンテンツ



日差しを遮る木陰やベンチ



効果的なデジタルサイネージ



賑わいや滞留機能の強化が可能

賑わいの社会実験に関する総合評価

まとめ

利活用の調査結果

東西連携や回遊性の
調査結果

意向調査結果



- 津駅周辺において面的な賑わいの創出が図れた
- 東西連絡通路の利用者数や駅周辺での滞留時間が増加

道路空間の再編に加え、公園を利用することで面的な賑わいの創出や東西連携、滞留機能の強化が可能

次年度の方向性について

次年度

- 社会実験の結果を踏まえ、歩道空間の拡張について、具体化（概略検討等）を進めます。



歩道空間の拡張イメージ 出展：三宮中央通りまちづくり協議会